

芦屋大学論叢 第80号
(令和6年1月28日)抜刷

「特別の教科 道徳」の課題と展望

—教職課程「道徳教育の指導法」における調査結果に基づいて—

阪 本 美 江

「特別の教科 道徳」の課題と展望

－教職課程「道徳教育の指導法」における調査結果に基づいて－

阪本美江
芦屋大学臨床教育学部

1. はじめに

2019年3月27日に小学校の「学習指導要領」の一部改正が実施され、道徳の教科化（「特別の教科 道徳」。以下、「道徳」）が小学校では2020年度（平成30年度）、中学校では2021年（平成31年度）からスタートすることになった。2019年7月には、「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」も示されている。本改訂で文部科学省（以下、「文科省」）は、道徳の趣旨や理念の実現を図るため、「「考え、議論する道徳」の転換」をスローガンにしている。

しかし、文科省による調査「教科の好き嫌い、学校生活の満足度、学校教育に求めるもの」（2017）の「教科や活動の時間の好き嫌い（小学生）」において道徳は、「とても好き」「まあ好き」がそれぞれ17.1%、33.3%と計50.4%で、「どちらともいえない」「あまり好きではない」「まったく好きでない」「無答・不明」がそれぞれ30.6%、12.7%、4.4%、1.9%で計49.6%と、〈好き〉の回答を上回る、という結果になった。さらに中学生においてはその比率がさらに上回り、「とても好き」「まあ好き」がそれぞれ14.6%、24.7%で計39.3%であった一方で、「どちらともいえない」「あまり好きではない」「まったく好きでない」「無答・不明」がそれぞれ40.8%、12.5%、5.8%、1.6%と計60.7%という結果であった。学年における推移を確認すると、「とても好き」「まあ好き」の合計が、小学校4年生が58.4%、5年生が49.3%、6年生が42.8%、中学1年生が40.3%、2年生が39.2%、3年生が37.2%と、学年が上がるに従い低下していること、すなわち〈道徳嫌い〉が増加していることが確認できる¹⁾。

「学習指導要領」において道徳教育は、学校の教育活動全体を通じておこなうものであるとされ、あらゆる教科等においてもそれぞれの特質に応じて適切な指導をおこなうものとされてきたが、以上のような状況を受け、児童・生徒が魅力ある授業づくりに向けて、教科として道徳の充実が図られる必要があると考える。すなわち、児童・生徒が魅力を感じる（心に響く、心を揺さぶる）授業づくりをおこなっていく必要がある。そのような児童・生徒が魅力を感じる授業づくりを進めていく上で、まず必要になってくるのが、どのような授業が児童・生徒の心に響くのか（心が揺さぶられるのか）を把握することである。そこで本稿では、芦屋大学において教職課程「道徳教育の指導法」を受講する2～4回生の学生を対象に、これまで受けてきた中でもっとも「心に残る道徳の授業」とその理由、及び「今後道徳で力を入れるべきテーマ」についての調査をおこない、どのような授業が今でも〈良い思い出として〉心に残っているのか明らかにすることで、魅力ある授業のあり方について考察する一つの手がかりとすることにした。

同様に、「心に残る道徳」について調査を実施した研究として、小柴等による「高校生・大学生の道徳への意識調査」（2018）がある²⁾。同研究では、〈道徳教育〉及び〈道徳〉そのものについてどのような意識を持っているのか、という2つの視点で高校生・大学生を対象にアンケートをおこない、その内容を分析している。調査項目は、①社会に出て役立つ道徳の授業について、②道徳の内容項目についての大切さの意識と実践について、であるが、その結果、道徳的価値の大切さと自己評価のギャップについての散布図等で

特徴的な傾向が見られたという。また、東風も「心に残る道徳資料と指導との関連」(2011)において、小学校を卒業した211名にアンケートを依頼して、道徳の授業で用いられた「道徳資料」の中で心に残る資料についての調査を実施している³⁾。その結果、心に残る作品(資料)には様々なジャンルがあり、名作では芥川龍之介の「くもの糸」が2年間にわたり上位5位に入る高い評価を得ていたことが明らかになったという。しかしいずれの研究も、本稿のような教職課程に在籍する学生を対象として、具体的にどのような授業がより良い印象として心に残っているのか調査することを通じて、今後の授業のあり方を考察する研究ではない。

本稿では、芦屋大学における「道徳教育の指導法(中等)」(2023年度前期)受講者を対象に調査を実施したが、同授業受講者の多くが教職課程に在籍する学生であった。すなわち、将来教員を目指す学生が大半を占めることから、(教職課程における授業を通じて)教育活動の具体的な実践力を獲得している学生が比較的多いと思われた。そのような学生を対象とした調査を分析することで、如何なる道徳の授業が児童・生徒の心に響く魅力あるものであるのか、見えてくるのではないかと考えている。

2. 道徳教育の課題及び教科化がめざすものと「4つの視点」—自治体での取り組みにも着目

2.1 道徳教育の課題及び教科化がめざすもの

道徳教育の「目標」は、「第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」とされている⁴⁾。そのような「目標」の下、道徳教育においては実践や方法においてさまざまな課題があるといえるが、文科省も「道徳教育の充実に関する懇談会」(2013年12月26日)において、「道徳教育の内容」の「改善の方向」として次のような内容を示した⁵⁾。すなわち、「道徳教育の内容として現行の学習指導要領に示されている項目については、基本的に適切なものと考えられるが、児童生徒の発達の段階や児童生徒を取り巻く環境の変化などに照らし過不足はないか、児童生徒の日常生活や将来にとって真に意義のあるものとなっているかなどについて改めて必要な見直しをおこない、学習指導要領を改訂する必要がある」と。その上で、発達の段階ごとに、とくに重視すべき内容や共通に指導すべき内容についてさらに精選・明確化を図ることが必要であることを指摘している。授業面においては、今後とくに重視すべき内容として、「いじめの防止や生命の尊重」「困難に屈しない心、自律心」「家族や集団の一員としての自覚」「多様な人々が共に生きていく上で必要な相互尊重のルールやマナー、法の意義を理解して守ること」「社会を構成する一員としての主体的な生き方」「グローバル社会の中での我が国の伝統文化といったアイデンティティに関する内容や国際社会とのかかわり」等を掲げている。以上は、「いじめの認知件数」が増加傾向にあることや、今後社会においてさらなるグローバル化が進展し複雑化することに鑑みた重要な提案であるといえるが、文科省も「とくに留意して取り扱っていく必要がある」内容である、と指摘している。そのような授業を実現する上でベースとなるのが、(道徳の)内容項目における「4つの視点」である。この「4つの視点」に基づいた内容項目を、改めて次項においてふり返ってみる。

2.2 「4つの視点」に基づいた内容項目

「学習指導要領」（2017年告示）では、道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目を「4の視点」から分類整理し、内容の全体構成及び相互の関連性と発展性を明確にしている⁶⁾。「4つの視点」は従前の「学習指導要領」と比較すると若干の変更がなされている。従前は、「1.主として自分自身に関すること」「2.主として他の人とのかかわりに関すること」「3.主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」「4.主として集団や社会とのかかわりに関すること」であったが、現行の「学習指導要領」では、まず番号表記が1・2・3・4の数字からA・B・C・Dのアルファベット表記にかわっていることが確認できる（【表1】）。また内容の順番も、児童・生徒から見た対象の広がり即して整理されており、従前の3・4（現行ではC・D）が入れ替わっている。記述内容にも若干の変更点があり、B（従前は2）の「視点」における「他の人」が「人」に変わり、自己と人との関わりをより一体的なものとして捉えていると見られる。さらにDの「視点」に、「生命」という言葉が加わっている。上述のように、「いじめの認知件数」が増加している問題等を受けて、子どもの「命」と向き合うという大きな柱の下、人生や命に関わる視点に修正が加わったと見られる。

【表1】

視点	標語									
A主として自分自身に関すること	自主、自律、自由と責任	節度、節制	向上心、個性の伸長	希望と勇気、克己と強い意志	真理の探求、創造					
B主として人との関わりに関すること	思いやり、感謝	礼儀	友情、信頼	相互理解、寛容						
C主として集団や社会との関わりに関すること	遵法精神、公德心	公正、公平、社会正義	社会参画、公共の精神	勤労	家族愛、家庭生活の充実	よりよい学校生活、集団生活の充実	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	国際理解、国際貢献	
D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	生命の尊さ	自然愛護	感動、畏敬の念	よりよく生きる喜び						

中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」より作成

2.3 自治体での取り組みの一例—兵庫県に着目して

各自治体においても、道徳の授業内容向上に向けての取り組みがおこなわれている。ここでは、兵庫県に着目して、その特徴を確認していく⁷⁾。兵庫県では、道徳の充実に向けて、各地域のリーダーとなる教員の育成及び地域の中核となる学校づくりを推進するため、道徳教育拠点校育成支援事業を実施している。同事業の実施にあたっては、道徳教育実践研究事業の研究推進地域として実践研究に1年間取り組んだ地域を次年度も継続して指定し、推進地域が実施する道徳の授業研究や校内研修に対する支援をおこなうために学識経験者を派遣するなど、2年間継続して実践研究が深められるようにしているという。同実践研究における資料を、兵庫県教育委員会は「令和4年度 道徳教育拠点校育成支援事業」としてHPにアップし、「各推進地域が、これまでの「対話的な学び」の考え方をより充実させ、「深い学び」をめざして取り組んだ授業

改善の工夫」の一部を紹介している。たとえば、「Ⅰ. 発問・問い返し（補助発問）の工夫」の実践例として、神戸市（本山中学校）の「対話から、「道徳的価値」について理解を深める」等が紹介されており、「Ⅱ. 視覚的に捉える工夫」の実践例としては、神戸市（本山第一小学校）の「児童の実態から考える発問と問い返し、ICTの効果的な活用」等が紹介されている。また、「Ⅲ. 授業後の検証・改善」の実践例として、明石市（野々池中学校・沢池小学校・鳥羽小学校）の「道徳的価値の理解を深める発問・問い返しによる授業改善」等が紹介されている。さらに兵庫県教育委員会の上記資料には、道徳を充実させる上で「感銘の残る授業をめざす」ことが不可欠であることが示されている。そこには、「感銘の残る授業をめざす教員と児童生徒との側面」「教材の側面」「学びの場の側面」において創意工夫が必要であることが記されている。

すなわち、道徳を充実させる上で、児童・生徒にとって「感銘の残る授業をめざす」ことが重要であることを明確に述べているのである。

3. 道徳の授業に関する調査—芦屋大学学生を対象として

では、上述のような「感銘の残る授業」とはどのような授業であるのか。本節では芦屋大学学生を対象に、これまで受けてきた道徳の授業をふり返ってもらい、もっとも「感銘の残る授業」、すなわちここでは〈良い意味〉でもっとも「心に残る道徳の授業」はどのような内容であったのか、自由に語ってもらい、その内容を分析することにした。

3.1 芦屋大学学生を対象とした道徳の授業に関する調査

2023年6月、芦屋大学における教職科目の1つである「道徳教育の指導法（中等）」に出席していた学生68名を対象として調査を実施した（全受講者数91名。内訳は学部2回生87名、学部4回生1名、大学院生2名、科目等履修生1名）。同授業は2回生以上を対象としているが、調査日に出席していた68名の内49名が臨床教育学部教育学科の学生であり、残り19名が経営教育学科の学生であった。中等の教員免許（保健体育科、社会科系、技術科、情報科⁸⁾）の取得希望者が50名で、取得の予定のない者が18名（内、留学生が2名）と、免許取得希望者が2.5倍以上であった。性別では男子学生が47名、女子学生が21名と男子学生が2倍以上であった。学生には、【表2】のように、「心に残る道徳の授業」とその理由、及び「今後道徳で力を入れるべきテーマ」について自由に語ってもらうことにした。

その結果、まず「心に残る道徳の授業」が実施された時期に関しては、小学校が26名、中学校が19名、小・中学校2名であった。当然のことながら、道徳は小・中学生を対象とした教科であるが、中・高等学校時代が2名、高等学校が1名、高等学校・大学が1名、大学時代の思い出を語る者が6名見られ、その他大学での経験（「自然学校」でのボランティア体験を含む）を示す者や時期不明な者が11名存在した。学生には、本調査結果を研究に活用することと、その際、回答者（本人）が特定されないよう留意する旨も伝えた。

【表2】

学科学科名	性別	教免取得予定	心に残る道徳の授業 (学年)	心に残った理由	今後道徳で力を入れるべきテーマ
1 教育学科	男	あり	体罰や学校問題について学んだり勉強したこと (中学・高校)	社会問題としてテレビやニュースなどで見ない日がないくらいだから	人間関係
2 教育学科	男	あり	いじめについての道徳授業 (高校・大学1年の前期)	いじめはしてはいけない事だし、1度してしまったことは、いじめられた人の心から絶対に消えないものだから、言葉づかひはしっかりしないとけないということが分かったから	LGBTQ
3 経営教育学科	男	あり	題材で野球の試合でサインを無視し、独断で判断し、その試合後ベンチメンバーから外された人の話 (小学3年)	スポーツ好きで、最初、この資料を読んだ時何が悪いかを分からなかったが、授業内で各小学校のクラブチームの監督の話聞き、スポーツとはチームワークである事を知った。それと同時にスポーツの持つ重要性を知った	LGBTQ に関する授業、固定概念の撤廃
4 経営教育学科	男	あり	命の大切さ、また、その命をどう守っていくかについての授業。この授業を受け、自分の中の価値観が大きく変化した (中学1年)	その命をどう使っていくかは自分次第だが、その命は色々な人のおかげであることなど	いじめをテーマとした授業
5 教育学科	男	なし	体罰や学校の問題について (中学・高校)	ニュースなどで体罰や人間関係についてたくさん取り上げられているから	人間関係
6 経営教育学科	男	あり	あまりない。いつ頃からか、道徳の授業で学ぶことは、自分はずで知っていることばかりだと思っていた(小学校はそもそも道徳の授業が多く、その時に学びすぎて飽きたのかもしれない)	ほぼすべてが博愛主義を押し付けるものだったからだと思う	博愛主義などではなく現実を見ること。出来ること出来ないことの区別。自らの生活について等に力を入れるべきだと思う
7 教育学科	留学生・男	なし	体罰や学校の問題 (大学1年)	昔とはトラブルが随分変わってきているから	人間関係
8 教育学科	留学生・男	なし	いじめは、そのいじめている人だけではなく、いじめをただ見ている人も悪いと感じた (中学2年)	いじめを見ながら、何も手助けしない人の話を聞いたから	いじめはただだけ傍観者も悪い
9 教育学科	男	あり	身体障害者の日常や大変な事などの動画 (中学2年か3年)	日常で自分達が普通にできている事が出来なかつたり、どのような助けを求めているか詳しく説明されていたから	人の思いやり、身体障害者への理解
10 教育学科	男	なし	学校に目が見えない方が来られて、その方の障害について話してもらった (中学3年)	点字やその方の生活についての話が印象的だった	いじめ
11 教育学科	女	あり	自然学校に行き、私は障害持つ子の担当になった。その子は首とくに雷、カメラの光がダメな子だった。しかし、それを皆に理解してもらえるよう教えた(自然学校)	雷の音がダメだったので、遊びも皆と触れ合うこともほぼできない状態だったので、それが大変だった	児童保護について
12 教育学科	男	あり	障害を持つ同年代の生徒が来て、コミュニケーションを深める授業 (中学2年)	色々と言語を持ちながら頑張っている同年代の人と学んだ	いじめに対する授業
13 教育学科	女	あり	小学生の時に、車イスについて勉強して、実際乗ってみた道徳の授業が心に残っている (小学6年)	ふれる機会のないものにふれたから	多様性や命について
14 教育学科	男	あり	色々な人がいることや、子どもが心に残っている「悪いこと」などを学ぶ授業 (小学5.6年・中学1年)	人と人が関わるとのこと。色々なタイプの人がいて自分の考えだけではいけないということ	個性だけでなく色々な人の性的なこと
15 教育学科	男	あり	障害をもちながらも、スポーツ選手として働いていた人が学校に来て、スポーツを教えたこと (小学6年)	車イスに乗りながらバスケットをするのがとても難しく、シュートすら届かなかったから	障害を持つ方についての授業
16 教育学科	男	あり	先生が、道徳の本を読み聞かせてくれた。自分で読むよりも、内容が入ってきたのを覚えている (小学)	聞いている内に、本が好きになり、他の本も探さずきつかけになったから	誹謗中傷について
17 教育学科	男	あり	いじめについての物語 (小学5年)	いじめられている方の気持ちが、こんなにも悲しいのかと感じたから	いじめについての授業
18 教育学科	男	あり	戦争についての授業。さとうきび畑の話をビデオで観た (中学2年)	ビデオで生々しい所が多かった。女性の人が崖から1人1人飛び降りるところ	命に関わること。いじめの問題。障害者に関すること。トランスジェンダーの問題
19 教育学科	男	あり	いじめ問題について(どの学年か忘れた)	初めていじめとは何が原因でどうおこなわれるのかを知ったから	自殺に関するテーマ
20 教育学科	女	あり	いじめや体罰、命に関わる授業、このようなことが起きることで、命を落としてしまう人がいる、いじめをなくす環境を作る授業 (小学3年)	体罰、いじめで命を落とす人がいることの悲しさをたくさん知って学んだから	言葉の使い方や命の大切さに関すること
21 教育学科	女	あり	クラスにいた障害を持っていた子についての授業 (中学1年)	その子との関わり方や、クラスの子達が気を付けてサポートしたりすることを学んだ	1人1人違っていいということ。個性の大切さ
22 教育学科	男	なし	LGBTQ (小学6年)	人の恋愛は自由だと	多様性、相手の心理
23 教育学科	男	あり	アルビノの方のお話 (小学5年)	みんな違っていいと教えてもらった	いじめや不登校に関する授業
24 教育学科	女	あり	手話の授業 (小学4年か5年)	実際に手話ができる人(難聴の人)が来て下さり、色々なことを教えてもらったから	障害に関すること
25 経営教育学科	男	あり	いじめに関する授業は心に残った (中学2年)	本当にいじめはいけないことだと何度も思った	いじめに関する授業
26 教育学科	男	なし	いじめに関する授業 (中学2年)	いじめをされた側の気持ちをどう思うか	障害に関すること
27 教育学科	女	あり	自然学校に行ったこと(淡路島)	特別支援学級の子たちや、様々な生徒と関わることができた	偏見や差別について
28 経営教育学科	男	あり	障害のある人が、実際にどのような生活をしているかの体験 (小学6年)	自分たちにとっては何でもないことが、とても不便に感じられていることがわかったから	命の大切さ
29 教育学科	男	あり	障害を持つ方が集まる学校に行き遊んだりすることで、障害者への理解を深める授業(小学低学年)	障害を持つ方と触れ合うことで、私達にはできないことがあったりして、私達には当たり前の事でも当たり前ではないと学び、障害を持つ方々への理解が深まった	いじめに関する授業

30	経営教育学科	男	あり	車イスの人が小学校に来てくれて、色々教えてくれたこと (小学3年)	自分は不自由なく生活できているから、障害をもっている人に優しくしようと思った	障害をもっている人について
31	経営教育学科	女	あり	コミュニケーションの授業で、知らない人と話して友達が増えたこと (中学2年)	人見知りの自分が、知らない人と話をして、友達ができたこと	LGBTQに関する授業
32	教育学科	男	なし	いじめに正面から向き合う授業	改めて、いじめに関して詳しく考え、どうしたら防止できるか理解できたから	いじめについて
33	経営教育学科	男	なし	生徒同士でコミュニケーションをとり、自分の意見を言い合う授業 (大学2年)	これまで話したことがない人とふれあうことが出来たから	いじめについて
34	教育学科	男	なし	他クラスでいじめられていた子を皆で指摘して、クラスを移動させたこと (小学4年)	その子が泣きながら、ありがとうと伝えてきた	仲間、親を大切にすること
35	経営教育学科	女	なし	目の見えない視覚障害者の方について学ぶことで、大変さを知った (小学6年)	目が見えない方の大変さがわかった	いじめについて
36	経営教育学科	女	あり	小学校の時に、視覚・聴覚に障がいを持っている方や、手がないが水泳選手としてパラリンピックに出場した方など、様々な障がいを持った方たちと話をする機会をたくさん設けていただいたことで、障がいへの理解を少しでも深めることが出来た (小学4年～6年)	障がいにもたくさん種類がある中で、当事者からの言葉の重さは、幼いながらに感じるがあった	LGBTQもそうだが、その時々々に問題になっていることを授業にしていけば
37	経営教育学科	女	あり	戦争の体験をされた方が、当時のお話を語ってくれた (小学高学年ぐらい)	自身が体験したことのない恐ろしさや不安を知った	いじめなどの人間関係、命について
38	教育学科	男	あり	いじめについて (小学6年)	なぜいじめをしてはいけないのかの理由を知ることができた	いじめ
39	教育学科	男	なし	いじめについて (小学4年)	なぜいじめをしてはいけないか	いじめ
40	教育学科	男	あり	短文投稿サイトに、友達への悪口を書くことについての授業 (中学1年)	SNSに友達の悪口を書くことは、その友達を傷つけたり、周りの人たちもよい気持ちにならないと言われたから	自分の生き方や他者との関わり方
41	経営教育学科	男	なし	人というのは言葉に弱い、特に、誹謗中傷が人を死に追い込んでしまうので、考えて発言しないとけないと思った (高校)	有名人などが亡くなったことを授業で学んだから	ネット環境について。ネットの使い方をしっかり明確に教える必要がある。なぜなら、ラインなどのいじめがあるから
42	教育学科	男	あり	前でグループになって授業をする (大学2年生)	その人の考え方や、人と人が協力し合って1つの授業を作って、発表する達成感があって、すごくよかった	いじめの授業
43	教育学科	女	あり	阪神・淡路大震災を実際に体験された方々からお話を聞いた授業 (小学1年～中学3年)	私の地元の過去について知ることができ、どのように復興して今の平和が保たれているのかということが印象に残っている	いじめ
44	教育学科	男	あり	足に力が入らなくなったおじさんが来て下さった授業 (小学)	その方が、自分の足が動かないことを個性ととらえて、楽しそうにしていたから	犯罪などの違反行為に対する認識
45	教育学科	女	あり	命の大切さ、交通安全が題名で、内容は命の大切さを知ること (中学1年)	いつどこで事故が起きてもかもしれないが、自分自身が周りをしっかり確認していれば、巻き込まれない事故もあることが分かったから	命について
46	教育学科	男	あり	車イス体験 (小学)	車イス生活の方の気持ちを少し理解し、小学生にしては感慨深い授業だった	性教育について
47	教育学科	女	あり	いじめなど、人の命の大切さを学ぶ授業 (小学)	自分の命や人の命がどれだけ大切なのか、深く知れたと思う	差別について
48	経営教育学科	男	あり	車イス体験、目が見えない状態で歩く体験 (小学6年)	その時は、大変だなと感じていたが、今振り返ると、足が不自由な人も目が見えない人もとても苦労して生きておられて、すごいことだと思っている。こうやって健康に生きていることは当たり前ではないと思った	いじめについて
49	経営教育学科	男	なし	小学校時に、ダウン症を患っていた同級生の母親が来られて、話をうかがった (小学3年)	まだ幼く、障害などについて知らなかったので、はじめて詳しく聞くことができたから	いじめについて
50	教育学科	男	あり	視覚障害の方が来られた (中学)	実際に視界を遮って歩いてみたり、物をよけたり等の体験ができたから	障害についてもっと詳しく知るべき
51	教育学科	女	あり	いじめや人との関わり方について (中学3年)	自分の学校は人数が少なく、人との関わりの変化にすぐ気付くことができたが、その大切さを先生が皆の前で話して下さった。その時、生徒同士で注意し合うべきだと思った	障害者の苦勞や関わり方
52	教育学科	女	あり	安楽死について学んだこと (大学2年)	今まで死についてあまり学んだことが無くて、きちんと理解して学べた	命について
53	教育学科	女	あり	今回の自然学校で、ダウン症の子と関わり、その子の考えやダウン症についての向き合い方について学んだ (自然学校)	本人と触れ合うことで、その子の考えや気持ちを深く知ることができた	児童保護の施設の話
54	経営教育学科	男	あり	自分たちで育てた家畜を自分たちの手で殺し、命の大切さを感じる授業 (大学1年)	家畜は何の罪もなく、人間の食べ物になっていてかわいそうだなと思った	自殺に関するテーマ
55	教育学科	女	なし	いじめに関する授業 (小学3年か4年)	私が無視されたことがあるため、心に残ったから	身体障害者について、LGBTQについて
56	教育学科	男	あり	命の大切さについての授業 (中学1年)	阪神淡路大震災や東日本大震災の被害にあわれて亡くなった人々たちを知って、心に残ったから	命の大切さや人との関わり
57	経営教育学科	女	なし	動物や生き物を自分たちで育てて、食事のありがたみを知る授業 (大学1年)	当たり前のように全然当たり前ではないことを知ったから	LGBTQについて

58	教育学科	男	あり	障害者施設に行ったことがある (小学6年)	身体が不自由な方を快適にするためにつくられたユニバーサルデザインを見て、感動した	
59	経営教育学科	男	あり	自身の障害について (小学)	障害を持っていても、自分が何かをしたいという意志があるから	障害者の方との関わり方
60	教育学科	男	あり	戦争の時の話、部落問題の話(戦争の話は、修学旅行で広島に行ったとき現地の人に話を聞いた)	実際に現地で戦争の被害を受けた人の話を聞いて、とてもリアルだったから	性に関する問題
61	教育学科	男	あり	同じテーマの道徳の授業を、いろんな先生がおこなったこと (中学)	先生によって意見が違うことを知った。考えが深まった	差別
62	経営教育学科	男	なし	もともといじめを受けていた人の話がとても印象に残った (中学3年)	体験談を語ってくれて、いじめがとても悪いことだと理解できたから	いじめについて
63	教育学科	男	あり	命についての授業 (中学)	その時期、おじいさんが亡くなったから	いじめはどのようにすれば無くなるのかについて力を入れるべき
64	経営教育学科	男	なし	全く覚えていない		論理的問題と現実的利益のバランス
65	教育学科	女	なし	障害を持つ子どもの話をし、どう接するかや、大切にすることを学んだこと	それがきっかけで、障害を持つクラスメイトと仲良くなれたし、話すことが増えたため	LGBTQ、自殺、不登校、いじめ、虐待、貧困問題
66	教育学科	女	あり	クラスで実際いじめがあり、生徒の意見、先生の意見などを話し合った (小学5年)	実際いじめられていた子がどんな気持ちだったか、いじめをしていた側はどんな気持ちだったかを話したこと	いじめに関する授業
67	教育学科	男	あり	清潔感のある子どもにする話	忘れた	いじめ
68	教育学科	女	あり	実際に障害を持つ人の話を聞いたり、アイマスクや耳栓などをつけて障害の体験をしたこと (中学1年)	実際に体験してみて、目が見えない怖さや、耳が聞こえない大変さを理解することが出来たから	命の授業

2022年6月27日調査実施。論旨を損なわない程度に誤字・脱字等に修正を加えた

3.2 「4つの視点」に基づいた調査結果の分析

【表2】の学生が語った〈良い思い出として〉「心に残る」授業(及びその理由)と「今後道徳で力を入れるべきテーマ」の内容がどのような特徴を有していたのかを、上述の「4つの視点」に基づき分析していく。

上述のように、「学習指導要領」では、道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目を「4つの視点」から分類整理しているが、その内容を改めて述べると「A.主として自分自身に関すること」「B.主として人との関わりに関すること」「C.主として集団や社会との関わりに関すること」「D.主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」である(現行の「学習指導要領」)。まず、【表2】の「心に残る道徳の授業」の内容をA~Dの内容に分類すると、A=0人、B=21人、C=32人、D=8人、該当なし=7人という結果であった。ただし、たとえばAの「主として自分自身に関すること」(Dの「生命」に関わることも含めて)は、他の「視点」にも繋がり得る項目であるといえるが、ここでは、最も該当すると思われる「視点」を1つ選びカウントすることにした(分類する際、「標語」の内容を加味することにした)。すなわち、Bの「主として人との関わりに関すること」やCの「主として集団や社会との関わりに関すること」に関する授業が「心に残る道徳の授業」としてもっとも多かったことが確認できる。具体的な内容としては、「いじめ」や「障害者」に関するテーマが多く挙げられていた。さらにそれらテーマを選んだ理由については、たとえば「いじめ」に関しては、「いじめを見ながら、何も手助けしない人の話を聞いたから」「SNSに友達の良い口を書くことは、その友達を傷つけたり、周りの人たちもよい気持ちにならないと言われたから」「有名人などが亡くなったことを授業で学んだから」等、事例を通じて学んだこと等が挙げられていた。「障害者」に関しては、小学校時代車イスについて学び、実際車イス体験をしたことを通じて「ふれる機会のないものにふれたから」「点字やその方の生活についての話が印象的だった」「特別支援学級の子たちや、様々な生徒と関わることができた」「障害を持つ方と触れ合うことで、私達にはできることができないことがあったりして、私達には当たり前でも当たり前ではないと学び、障害を持つ方々への理解が深まった」等、実際に経験・体験した授業が心に残ることが挙げられていた。

つぎに、「今後道徳で力を入れるべきテーマ」を「4つの視点」で分類した結果が、A=0人、B=31人、C=27人、D=8人、該当なし=2人であった（「心に残る授業」と同様に、複数の視点が該当するテーマもあったが、1つに絞ることにした）。「今後道徳で力を入れるべきテーマ」についても、やはりBとCが多く、児童・生徒にとってBの「主として人との関わりに関すること」やCの「主として集団や社会との関わりに関すること」は身近なテーマであることから、より印象に残りやすい傾向があるのではないかと考えた。内容に関しては、「心に残る授業」同様、「いじめ」や「障害者」に関するテーマが圧倒的に多かったが、性に関するテーマ（LGBT〔Q〕も含む）を挙げる学生も8名存在した。「心に残る授業」でもLGBT（Q）に関する授業を挙げる者は存在したが、わずか1名であり（22番学生）、これまでの道徳では同テーマに関する授業が圧倒的に少なかった可能性が示唆された。それは教科書の記述内容の変化からも確認できる。2021年春から採用された中学校教科書から、LGBT（Q）など性的少数者についての記述が大幅に増えたといわれている。従来の教科書で性の多様性について触れていたのは、全教科中、わずか5社6点であったといわれているが、2020年度に合格した教科書では9社17点と、大幅に増加したといわれる。教科も道徳だけでなく国語、歴史、公民、家庭、美術、保健体育に広がったといわれる⁹⁾。これはすなわち、社会の意識の変化や国際潮流を各出版社が反映させた結果であると考えられるが、文科省は教えるべき具体的内容を「学習指導要領」に定めていない。しかし「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（2022）、「第2章 道徳教育の目標」「第1節 道徳教育と道徳科」には、参考として「各教科等における道徳教育」が記されているが、特別活動では、「男女相互の理解と協力、思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応」が指導されることが求められている。すなわち、「異性」への関心や理解を取り上げることが義務付けられているといえる。本調査でも性に関するテーマについて「力を入れるべき」であるとの意見が多かったが、（性に関するテーマは）「いじめ」や「障害者」等といった従来扱われてきたテーマに加えて、充実させていく必要があるといえるだろう。

4. まとめ

本稿では、道徳（道徳科）の現状を踏まえて、教職課程「道徳教育の指導法」を受講する芦屋大学の学生を対象に、これまで受けてきた道徳の中で「心に残る道徳の授業」とその理由、及び「今後道徳で力を入れるべきテーマ」に関する調査をおこない、どのような授業が今でも〈良い思い出として〉心に残っているのか明らかにすることで、魅力ある授業のあり方について考察することを目指した。その結果、「いじめ」や「障害者」問題等、「4つの視点」の分類では児童生徒にとって身近なテーマであるBの「主として人との関わりに関すること」やCの「主として集団や社会との関わりに関すること」に分類される授業が、より良い思い出として心に残っていることが明らかとなった。さらに、授業内容に関しても、実例に基づいていることや、座学中心というよりも経験や体験を通じた授業が心に残る、すなわち魅力ある授業として感じられる傾向にある、ということも確認できた。「今後力を入れるテーマ」に関しては、「心に残る授業」と同様に「いじめ」や「障害者」問題に関するテーマを挙げる者が多かったが、性に関するテーマを挙げる学生も多かった。「心に残る授業」の中で性に関するテーマを挙げた学生がわずか1名であったというのは、やはりこれまで同テーマ（性に関するテーマ）はほとんど教科書にも取り上げられていなかったことから、扱われない傾向にあったと考えられた。性に関するテーマは、中央教育審議会（2021年1月26日）における「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協

働的な学びの実現～(答申)」の「4. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性」における「(1) 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する」の中でも、性同一性障害や性的指向・性自認(性同一性)に悩みを抱える子どもが「安心して学校で学べるようにする」ことが求められていることから¹⁰⁾、今日、性に関する内容は重要なテーマの一つになっているといえる。ただ、本調査では、なぜ性に関するテーマに力を入れるべきであるのか、その理由に関してまでは調査をおこなわなかった。その理由や、どのような内容・方法で取り扱われるべきなのかを追求することで、今後同テーマを扱う際の課題が見えてくると考えている。引き続き、調査を継続させていきたい。

注及び引用文献

- 1) 文部科学省(2017)「教科の好き嫌い、学校生活の満足度、学校教育に求めるもの」
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/giji/_icsFiles/fieldfile/2017/12/20/1399702_003.pdf
(2023年11月29日閲覧)。
- 2) 小柴孝子、村瀬公胤、武田明典、土田雄一「高校生・大学生の道徳への意識調査」『神田外語大学紀要』第30号、2018年、493-512頁。
- 3) 東風安生「心に残る道徳貸料と指導との関連」『教材学研究』第22巻、2011年、215-222頁。
- 4) 文部科学省「中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳」『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』教育出版株式会社、2022年、134頁。
- 5) 文部科学省 道徳教育の充実に関する懇談会(2013)「今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/_icsFiles/fieldfile/2013/12/27/1343013_01.pdf
(2023年12月3日閲覧)。
- 6) 前掲、文部科学省(2022)、134-135頁。
- 7) 兵庫県教育委員会(2022)「令和4年度 道徳教育拠点校育成支援事業 兵庫県教育委員会実践事例のまとめ」
https://www.2.hyogo-c.ed.jp/hpe/uploads/sites/8/2023/04/r_04_ikusei.pdf (2023年12月3日閲覧)。
- 8) 芦屋大学『学生便覧』芦屋大学、2022。参照
- 9) 東京新聞(2020)「中学教科書に「性の多様性」来春から大幅増 でも文科省は“異性”にこだわり 「戦前の価値観」と批判も」
<https://sukusuku.tokyo-np.co.jp/education/29092/> (2023年12月4日閲覧)。
- 10) 中央教育審議会(2021)「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto_02-000012321_2-4.pdf (2023年12月20日閲覧)。

— Abstract —

Challenges and Prospects in Moral Education as a Special Subject: Based on Survey Results regarding the Teacher-Training Course “Teaching Methods for Moral Education”

SAKAMOTO Yoshie

The Course of Study announced in 2017 turned moral education into “Moral Education as a Special Subject.” With this, initiatives to improve moral education are being taken from various standpoints. Lectures on how to teach moral education in university teacher-training courses aim to deepen students' understanding of moral values, in addition to presenting teaching methods and other subjects. Thus, this study aimed to obtain suggestions on how to improve moral education by having students who have taken the teacher-training course “Teaching Methods for Moral Education” speak freely about which lectures on moral education have stayed with them. The results confirmed that teaching based on problem-solving and experiential learning tends to stay in their memories better, with many students also mentioning that LGBT- and sex-related teaching is expected to be a theme in the future.